

2023 年度

長崎外国語大学の教員の免許状授与の
所要資格を得させるための課程に係る
自己点検・評価報告書

学校法人長崎学院
長崎外国語大学

2023 年度

長崎外国語大学の教員の免許状授与の所要資格を 得させるための課程に係る自己点検・評価報告書

目次

はじめに	2
1. 本報告書作成に当たって	
2. 本学教職課程の概要	
本文	
〔基準領域 2〕	6
学生の確保・育成・キャリア支援	
基準項目 2-1 教職を担うべき適切な人材（学生）の確保・育成	
基準項目 2-2 教職へのキャリア支援	
総合評価と過去 3 年間の教職関連就職実績	
おわりに	12
1. 〔基準領域 2〕 で見た自己点検（課題の整理）	
2. 昨年度の自己点検における課題の確認と改善状況	
3. 本自己点検の位置付けと今後の方向性	

はじめに

1. 本報告書作成にあたって

本学の教職課程に係る自己点検・評価は、これまで大学全体の自己点検・評価の一環として実施され、その成果は本学の自己点検・評価報告書に記載されてきた。教育職員免許法施行規則改正(2022(令和4)年4月1日施行)に伴い、同規則第22条の8にて「認定課程を有する大学は、当該大学における認定課程の教育課程、教員組織、教育実習並び施設及び設備の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする」との規定が新たに追加されたことを受け、本学では大学の内部質保証を管掌する自己点検・評価委員会及び内部質保証推進協議会において学校教育法第109条第1項に定める自己点検・評価結果とは別途に「長崎外国語大学の教員の免許状授与の所要資格を得させるための課程に係る自己点検・評価報告書」を作成し、公表する方針を決定した。本決定に基づき、2021(令和3)年度の教職課程自己点検・評価報告書を2022(令和4)年10月に公表したところである。

『2023(令和5)年度』版も『2021(令和3)年度版』に引き続き一般社団法人全国私立大学教職課程協会(以下、本書において「全私教協」という)が策定した「全私教協版自己点検・評価基準」(2021年3月)に依拠している。その3つの基準領域(1. 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み、2. 学生の確保・育成・キャリア支援、3. 適切な教職課程カリキュラム)のうち「2. 学生の確保・育成・キャリア支援」は教職課程における入口・出口的なものであり、その自己点検は大変重要である。

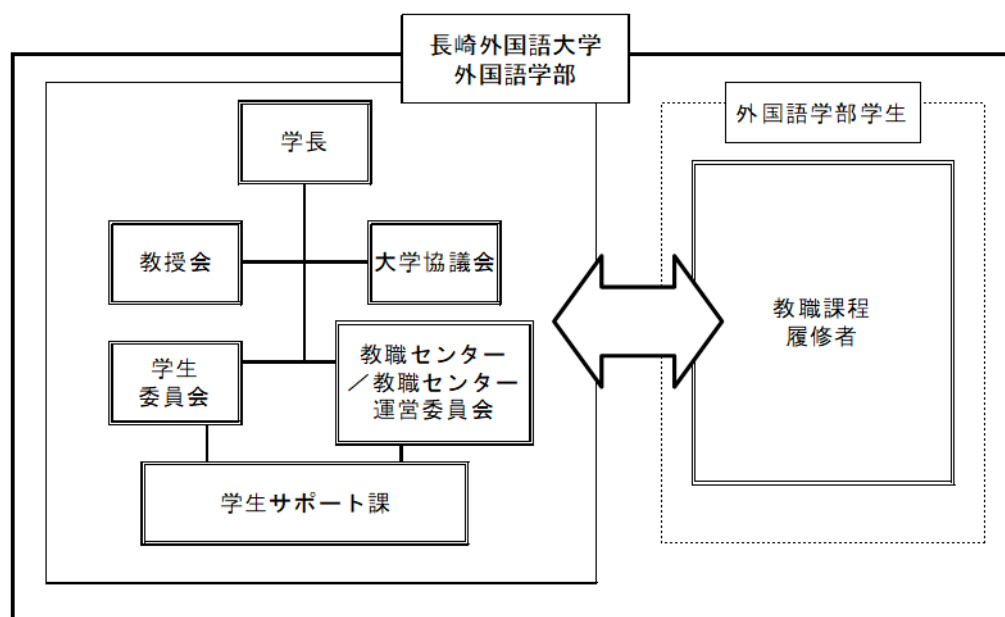
本報告書は、2022年度版に基づくものではあるが、特に、「2. 学生の確保・育成・キャリア支援」に焦点を絞り、前年度版で指摘された主要課題への対応とその進捗状況を纏め、また、併せて就職実績の情報を整理・統合するもので、次年度以降におけるPDCAサイクルの循環に寄与することをその目的としている。

2. 本学教職課程の概要

●免許状の種類

学部	学科	免許状の種類
外国語学部	現代英語学科	中一種免(外国語(英語))
		高一種免(外国語(英語))
	国際コミュニケーション学科	—

●教員の養成に係る組織図



●教職センター運営委員会

区分	役職・氏名	担当科目等
委員長	教職センター長 教 授 川島浩勝	「教職概論」「総合的な学習の時間及び特別活動の指導法」、 「英語科教育法Ⅲ／Ⅳ」「学校インターンシップ」 「教職実習事前事後指導」「教育実習Ⅰ／Ⅱ」 「教職実践演習(中・高)」
委員	教 授 富田高嗣	—
委員	教 授 藤内則光	「英語学研究入門Ⅰ」「英語学研究入門Ⅱ」 「英語学研究演習Ⅰ」「英語学研究演習Ⅱ」
委員	教 授 小島居伸介	「異文化間コミュニケーションⅠ」
委員	准教授 辰己明子	「教職概論」「英語科教育法Ⅰ／Ⅱ」 「教職実習事前事後指導」「教育実習Ⅰ／Ⅱ」 「教職実践演習(中・高)」
委員	准教授 中原郷子	—
委員	学生サポート課 課 長 洲加本周五郎	—

●教職科目担当教員（上記以外の教育の基礎的理解に関する科目等担当者）

区分	氏名	担当科目等
非常勤講師	乙須翼	「教育原理」
非常勤講師	榎景子	「教育制度」
非常勤講師	藤井佑介	「教育方法学」「総合的な学習の時間及び特別活動の指導法」
非常勤講師	石川衣紀	「特別支援教育」
非常勤講師	加来秀俊	「教育心理学」
非常勤講師	山岸利次	「道德教育論」
非常勤講師	江村理奈	「教育相談」「生徒・進路指導論」

●中一種・高一種免（外国語（英語））教科及び教科の指導法に関する科目担当教員

区分	氏名	担当科目等
	橋本高明	「英語音声学」「Theme WritingⅠ」「Theme WritingⅡ」 「Critical ReadingⅠ」「Critical ReadingⅡ」
	TIEDEMANN Mark	「英語文学研究入門Ⅰ」「英語文学研究演習Ⅱ」 「DebateⅠ」「DebateⅡ」
	生田和也	「英語文学研究入門Ⅱ」「英語文学研究演習Ⅰ」
	MARTINSON Lars	「Theme WritingⅠ」「Theme WritingⅡ」 「Current Topics in the WorldⅠ」 「Current Topics in the WorldⅡ」
	山川欣也	「英米文化研究演習Ⅰ」「英米文化研究演習Ⅱ」
	小島居伸介	「異文化間コミュニケーションⅠ」
	辰己明子	「英米文化研究入門Ⅰ」「英米文化研究入門Ⅱ」 「英語科教育法Ⅰ」「英語科教育法Ⅱ」
	川島浩勝	「英語科教育法Ⅲ」「英語科教育法Ⅳ」
	CLAUSEN Daniel	「Public Speaking&PresentationⅠ」 「Public Speaking&PresentationⅡ」

●大学が独自に設定する科目担当教員

区分	氏名	担当科目等
	川島 浩勝	「学校インターンシップ」
	KUMAR Krishan	「学校インターンシップ」

●卒業者の教員免許状の取得状況、及び教員への就職の状況

英語教員免許状

年度	高一種 中一種	高一種 のみ	中一種 のみ	合計	教員採用数 (臨採を含む)
2004	12	4	0	16	8
2005	10	1	2	13	4
2006	14	1	6	21	6
2007	6	0	1	7	5
2008	5	0	3	8	5
2009	2	0	3	5	3
2010	2	0	0	2	0
2011	1	1	1	3	1
2012	0	0	0	0	0
2013	2	0	0	2	1
2014	2	1	1	4	2
2015	7	0	0	7	2
2016	3	0	0	3	2
2017	7	1	0	8	2
2018	5	1	0	6	6
2019	7	0	0	7	1
2020	1	0	0	1	1
2021	8	0	0	8	4
2022	8	0	0	8	3
2023	6	0	0	6	5

本文

〔基準領域 2〕 学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目 2-1 教職を担うべき適切な人材（学生）の確保・育成

- ① 当該教職課程で学ぶにふさわしい学生像を「入学者受入れの方針」等を踏まえて、学生の募集や選考ないしガイダンス等を実施しているか

〔自己評価〕

1 年次春学期・秋学期に行われる新入生オリエンテーションにおいて、教職ガイダンス（資料 1）を実施して、教職課程に関する情報を提供している。より詳細な情報は「教職概論」のシラバス（資料 2）等において伝達し、教職ガイダンスと授業との有機的関連性を高めている。

以上のことから、十分ではないものの基準項目 2-1-1 の最低限は満たしているものと自己評価する。

〔残された課題〕

上述の教職ガイダンスでは、本大学で教職課程を履修し、教員になる意義を説明している。しかしながら、より基本的な「入学者受入れの方針」との連動に関しては十分ではなかった面がある。今後はそのような連動性を意識して、教職を志す学生に対して募集や選考ないしガイダンス等を実施することが必要である。

なお、昨年度指摘した教職課程で学ぶにふさわしい学生像に対する学生の理解の問題に関しては、「教職概論」等で、教育実践動画を鑑賞させ、ディスカッションを通し、学生たちのレスポンスを引き出すことに成功し、同時に、学生たちの理解度を把握することができた。しかしながら、まだ十分ではなく、現役の教員の生の声を聞かせるなど、さらなる工夫が必要であろう。

資料 1: 2023 年度「春学期新入生対象オリエンテーション資料」

資料 2: 2023 年度「教職概論」のシラバス

- ② 「教育課程編成・実施の方針」等を踏まえて、教職を担うにふさわしい学生が教職課程の履修を開始・継続するための基準を設定しているか

〔自己評価〕

教職を担うにふさわしい学生が教職課程の履修を開始・継続するための基準として、「教育職員免許状取得に関する規程」（資料 3）で、1) 基礎資格及び必要単位数、2) 履修資格が定められている。また、『教職ガイドブック』（資料 4）には、教育実習の参加要件等より細かい基準が明記されている。

以上のことから、基準項目 2-1-2 を満たしているものと自己評価する。

〔残された課題〕

教育実習参加要件の基礎的データとなる GPA の数値基準が記載されていない問題があったが、委員会で再度数値基準を見直し、24 年度より『教職ガイドブック』等に明記することが決定され、次年度に向けて準備中である。

資料 3: 「教育職員免許状取得に関する規程」

学生関連規程集: https://nagasaki-gaigo.manaba.jp/course_70780_page、長崎外国語大学 manaba（学生ラーニング・マネジメント・システム: LMS）

資料 4: 『教職ガイドブック』

- ③ 「卒業認定・学位授与の方針」も踏まえて、当該教職課程に即した適切な規模の履修学生を受け

入れているか

[自己評価]

これまで、特に、人数制限を設けず、教職課程の運営を行なってきた。確かに、1 年次における履修者の数は多いが、学年進行に伴い、適正人数に落ち着き、最終的には教職に対して高い適性を有する学生が履修を続けている（資料 5）。多くの場面で、個別指導が求められる教職課程の特質を考えると、適切な規模であると言える。

以上のことから、基準項目 2-1-3 を満たしているものと自己評価する。

[残された課題]

数年毎に取得者が極端に少なくなり、授業実施が難しくなることがある。最近では比較的安定しているものの、常に、社会や学生の変化に注意を払いながら、データを蓄積し、受講者減少の兆候を逃さないようにし、安定した教職課程の運営を目指す。

資料 5:「教職課程主要科目の履修者の推移表: 学年別」

④「履修カルテ」を活用する等、学生の適性や資質に応じた教職指導が行われているか

[自己評価]

本学の教職課程は小規模で、概して、学生と担当教員の距離は近く、コミュニケーションは円滑に行われ、学生の適性や資質に応じた教職指導が実践されている。また、教員間のコミュニケーションもスムーズで、日々のメール交換に加え、週に 2 回程度の頻度で、お互いの研究室を訪れ、学生並びに教職指導に関して様々な情報が交換されている。

新教職カルテシステム（資料 6, 7）が使用されることもあるが、あくまでも補助的な役割（履修状況や目標達成度の確認等）を担うことが多い。今のところ、主に、対面でのコミュニケーションを通し、学生の適性や資質に応じた教職指導が行われている。

以上のことから、基準項目 2-1-3 を満たしているものと自己評価する。

[残された課題]

教職カルテシステムを利用することにより、教職課程履修に関するデータの集約性・一元性を高めることができ、また、長期間にわたりデータを蓄積することにより、学生の適性や資質向上につながるような情報を可視化して履修者に提示できる。今後は、データの蓄積という観点から教職カルテシステムの利用法を研究する必要がある。

資料 6:「教職課程履修カルテ」の説明会資料

資料 7:「教職カルテ活用スケジュール」

[基準項目 2-1 の残された課題と改善・改革に向けた取り組み]

基準項目 2-1 の各基準については、概ね、最低限の基準は満たしている。今後の課題や改善・改革に向けた取り組みを纏めると、1) 教育実習参加要件の基礎的データとなる GPA の数値基準の正式公表（現在準備中）、2) 教職カルテシステムの活用法の研究、となるであろう。

基準項目 2-2 教職へのキャリア支援

① 学生の教職に就こうとする意欲や適性を把握しているか

[自己評価]

学生の教職に就こうとする意欲や適性は、主に「教職概論」(前掲資料 2)を通して把握され、また、年に 2 回開催される教育実習等の報告会(資料 8)や就職対策講座である「キャリアプランニング I」(資料 9)において、上級生の教育実習等の体験談や、また、すでに教壇に立っている先輩教員の仕事に対する取り組みを聞くことにより、自己の教職に就こうとする適性や意欲を向上させる機会を提供している。その上で、期を見極め、個別面談等を通して履修者の教職に就こうとする意欲や適性を把握している。

以上のことから基準項目 2-2-1 を満たしているものと自己評価する。

[残された課題]

上述したように、教職カルテシステムを利用することにより、教職課程履修に関するデータの集約性・一元性を高めることができ、また、長期間にわたりデータを蓄積することにより、学生の教職に就こうとする意欲や適性向上につながるような情報を可視化して履修者に提示できる。今後は、データの蓄積という観点から教職カルテシステムの利用法を研究する必要がある。

資料 8:「教職課程コースニュース: 令和 5 年度教育実習等報告会について」<長崎外国語大学 manaba (学生ラーニング・マネジメント・システム: LMS) >
資料 9: 2023 年度「キャリアプランニング I」のシラバス

② 学生のニーズや適性の把握に基づいた適切なキャリア支援を組織的に行っているか

[自己評価]

前年度を踏襲し、教員採用試験に向けた一般的なガイダンスは、限定的ではあるが「教職概論」(前掲資料 2)内で行い、教員採用試験への取り組みの基本を指導している。特に、筆記・面接試験対策として、「教職新聞ノート」を作成し、教育に関する情報をまとめさせている。この取り組みは、教職の他の授業でも行われ、4 年次開講科目の「教職実践演習」に引き継がれている。

教員採用試験に関しては、東京アカデミーの教員採用試験講座を受けたり(資料 10)、また、教職センター運営委員会の英語教員を中心に、模擬授業や面接の指導を行なっている(資料 11)。

以上のことから、基準項目 2-2-2 を満たしているものと自己評価する。

[残された課題]

引き続き、3 年生向けに行なった東京アカデミーの教員採用試験講座の時期や、授業内容との有機的連動性を高めていく必要がある。

資料 10:「東京アカデミー教員採用試験講座受験者名簿」
資料 11:「2023 年度模擬授業面接指導実施記録」

③ 教職に就くための各種情報を適切に提供しているか

[自己評価]

教員採用試験の一般的なガイダンスに加え、個別に希望者を対象に「公立学校教員採用選考試験大学推薦特別採用選考枠」に関する説明も行なっている。また、毎年 5 月頃、長崎県教育庁高校教育課県立学校人事班から講師を招き、長崎県の採用試験に関する説明会を開催している(資料 12)。

私立学校に関する情報としては、キャリアセンターと連携し、大学に送られてくる募集要項等を整理し、教職センターで閲覧できるようにしている。なお、緊急性が高いものに関しては、教職

関連授業等で、受講者に紹介・説明を行なっている。

以上のことから基準項目 2-2-3 を満たしているものと自己評価する。

[残された課題]

引き続き、LMS や教職センター学習室の更なる活用方法を考えていく必要がある。

資料 12: 「教職課程コースニュース: 令和 6 年度長崎県公立学校教員採用試験説明会の開催について」<長崎外国語大学 manaba (学生ラーニング・マネジメント・システム: LMS) >

④ 教員免許状取得件数、教員就職率を高める工夫をしているか

[自己評価]

教員免許状取得件数や教員就職率は年度によって幅があるが、前者に関しては、「教職概論」<前掲資料 2) 等>の授業や上述の長崎県教育庁高校教育課県立学校人事班からの講師による説明を通し、教員の魅力を伝え、教員免許状取得のための学習の動機付けを行なっている。また、教員就職率を高める工夫としては、「公立学校教員採用選考試験大学推薦特別採用選考枠」の情報を伝え、また、私立校エントリーシートの記入を行い、私立校の情報を集めさせ、教員就職率を高めている。

以上のことから、基準項目 2-2-4 を満たしているものと自己評価する。

[残された課題]

多様化する受講者への対応が十分ではない部分もあるので、引き続き、キャリアセンターとの連携を強化していく必要がある。

⑤ キャリア支援を充実させる観点から、教職に就いている卒業生や地域の多様な人材等との連携を図っているか

[自己評価]

就職対策講座である「キャリアプランニング I」(資料 13)において、教職に就いている卒業生を招き、教職の魅力を伝え、キャリア支援の充実に繋げている。

以上のことから、基準項目 2-2-5 を満たしているものと自己評価する。

[残された課題]

本年度より「学校インターシップ」(資料 14)が本格的に稼働するようになり、大学周辺の地域の多様な人材等との連携が促進され、教職の意義等が再確認できた。「学校インターシップ」をベースに地域の多様な人材との連携をさらに深めていく必要がある

資料 13: 2023 年度「キャリアプランニング I」のシラバス

資料 14: 2023 年度「学校インターシップ」のシラバス

[基準項目 2-2 の残された課題と改善・改革に向けた取組み]

今後の課題や改善・改革に向けた取組みを纏めると、1) キャリアセンターと教職センターの連携強化、2) 外部講師による教員採用試験対策セミナー等の充実、となるであろう。

総合評価及び過去3年間の教職関連就職状況

以上、教職課程における入口・出口としての学生の確保・育成・キャリア支援に関して自己点検を行ってきた。それぞれの下部領域において課題はあるものの、深刻な状況に陥っているところはなく、総合的に見て、本学の教職課程における学生の確保・育成・キャリア支援は機能していると考えられる。下記の表は過去3年間の教職関連就職状況を纏めたもので、年度によっては教員免許状を取得した学生の殆どが教員になり、また、正式採用され教員になった学生も毎年一定数おり、しかも、増加傾向にあることがわかる。このような就職状況を踏まえると、学生の確保・育成・キャリア支援の間には実効性を伴った良い循環ができていると言っても良いだろう。

過去3年間の教職関連就職状況表

卒業年度	教員免許状取得者 人数	教員（非常勤講師等を含 む全て）になった人数	教員（正式採用） になった人数
2023	6	5	3
2022	8	3	2
2021	8	4	1

おわりに

1. [基準領域2] で見た自己点検（課題の整理）

本報告書では、「2. 学生の確保・育成・キャリア支援」に焦点を絞り、前年度版で指摘した主要課題への対応とその進捗状況を見てきた。上述したように、総合的に見て、本学の教職課程における学生の確保・育成・キャリア支援は機能していると言ってよいだろう。しかしながら、その機能性の向上を図るために、まずは、次のような課題に取り組む必要がある。

- 1) 本教職課程は小規模であるため、学生と教員の距離が近く、コミュニケーションも円滑になされ、教職履修者の教職に就こうとする適性等を適切に把握しながら教育活動が展開されている。しかしながら、そのような教育活動を長期的スパンで考えると、客観的なデータに基づく指導・助言体制の構築も必要である。現在、教職システムが稼働しているが、教職課程履修に関するデータの集約性・一元性には課題が残る。長期間にわたりデータを蓄積することにより、例えば、学生の教職に就こうとする意欲や適性向上につながるような情報を可視化して履修者に提示できれば、更に、きめ細かい指導が可能となるであろう。今後は、データの蓄積という観点から教職カルテシステムの利用法を研究する必要がある。
- 2) 過去3年間における教職関連就職状況を示した状況の表を見てもわかるように、本学の教職課程におけるキャリア体制は評価できる。しかしながら、教員の採用に関する状況は日々変化しており、就職の形態も多様化している。今後は、キャリアセンター、教職センター、さらに教育委員会等との連携を深め、教職課程におけるキャリア支援システムを充実させていく必要がある。

2. 昨年度の自己点検における課題の確認と改善状況

昨年度の報告書では、1) 教職課程の運営を支える人的リソース及びハードの問題、2) 教職課程運営機関（教職センター）構成員以外の全学的な理解・支援の問題、3) 大学の正規教育課程との運用上の齟齬の問題、4) 学生含むステークホルダーへのアカウントビリティと連携の問題、それぞれに関して改善状況が述べられている。このうち、3) や4) の問題は上記「基準項目 2-1 の残された課題と改善・改革に向けた取組み」で述べたように、教育実習参加要件の基礎的データとなる GPA の数値基準を正式公表（現在準備中）することにより、解決できると思われる。実際のところ、その方向で教職課程は運営されている。

しかしながら、本年度においても、上述の問題 1) や問題 2) に関しては、改善が進んでおらず、「パソコン等が老朽化している教室もあり、ICT を使った教育活動がスムーズにいかないという報告が多くなってきており、ICT 教育環境機器全体のアップデートが急務である」や「教職課程の運営を円滑に行うための事務体制も不十分（事務職員の勤務形態が専従でない等）で、多様化する社会や学生に対応した発展的な教職課程の運営は極めて難しい」といった状況は続いている。

3. 本自己点検の位置付けと今後の方向性

上述したように、総合的に見て、本学の教職課程における学生の確保・育成・キャリア支援は機能し、学生の確保・育成・キャリア支援の間には実効性を伴った良い循環ができています。上記の問題 1) や問題 2) に関係ないところで、そのような良い循環を確認できたことは大変意義があったのではないだろうか。

しかしながら、持続可能な教職課程を運営するためには、その循環を強固なものとし、それを他の領域にも転移させることではないだろうか。問題 1) や問題 2) を放置し、解決を先送りすると、せっかく出来た良い循環が失われ、多様化する社会や学生に対応した発展的な教職課程の運営ができず、最終的には、教職課程そのものが衰退し、やがて教職課程が存続できなくなる状況に陥る可能性も否定できない。

早い時期に問題 1 や問題 2 が解決されることを祈りつつ、次年度以降は、再び、3 つの基準領域（1. 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み、2. 学生の確保・育成・キャリア支援、3. 適切な教職課程カリキュラム）から本学の教職課程を総合的に自己点検する予定である。